

1 単元名 心に残った魅力を伝える「お話ガイド」を作って物語を友達に推薦しよう
「大造じいさんとガン」

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、心に残った魅力を伝える「お話ガイド」を作って物語を友達に推薦することを位置付けた。ここでは、同じ作者の作品を比べて読み、自分で選んだ作品の推薦文を書いて紹介する。「お話ガイド」には、あらずじや登場人物の相互関係が分かる人物マップ、物語の一番の魅力を推薦する文を書くようにする。物語の魅力をお話ガイドを作るには、登場人物の人物像や相互関係を把握し、会話や行動の裏にある心情を読み、優れた叙述について自分の考えをまとめることが必要となる。また、その過程では、交流を行い、友達の読みを聞きながらさらに自分の考えを広げ深めていく。したがって、登場人物の相互関係を図解する「お話ガイド」を作成し、物語を推薦する活動を行えば、本単元でねらう、第5学年及び第6学年「C読むこと」の指導事項「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」が実現できると考える。

3 単元について

(1) 児童観 児童数**人

児童は、これまでに会話や行動描写から人物像を想像したり、登場人物同士の関わりの変化を出来事を通して捉えたりする学習をしてきている。また、物語を読み、与えられた構成や型に沿って感想をまとめることを経験してきている。

<平成26年度県学力診断のためのテスト(5年生)から>

番号	小問のねらい	本校正答率	県正答率
11	場面の様子を叙述に即して読み取る力	**%	**%
14	人物の気持ちを想像しながら読み取る力	**%	**%
15	人物の気持ちを叙述に即して読み取る力	**%	**%

<平成26年度全国学力・学習状況調査から>

番号	出題の趣旨	本校正答率	全国正答率
A5	物語の登場人物の相互関係を捉えることができるかどうか	**%	**%

昨年度の県学力診断のためのテストの文学的文章に関するテストや全国学力・学習状況調査の問題を実施したところ、結果から、人物の気持ちを想像しながら読み取ることや人物の気持ちを叙述に即して読み取ること、物語の登場人物の相互関係を捉えることが十分に身に付いていないと分かる。これらの実態をふまえ、叙述に着目し登場人物の相互関係や心情を捉える力を育てる必要があると考える。

(2) 教材観

本教材は、ガンの頭領「残雪」と、狩人「大造じいさん」との間に繰り広げられる生存のための厳しい闘争を通じて、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの人間味あふれる姿が、緊迫した雰囲気の中で生き生きと描かれた物語である。残雪の行動によって、大造じいさんの気持ちが変わっていく様子が描かれており、登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉えることを通して、内面にある深い心情も合わせて捉えることができる。また、登場人物の心情が、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている叙述があり、児童が表現の仕方に注意し、想像を豊かにしながら読むのに適した教材といえる。

(3) 指導観

本単元では、目的に応じ叙述に着目し登場人物の相互関係や心情を捉える力を育てていきたい。そこで、「心に残った魅力を伝える『お話ガイド』を作って物語を推薦しよう」を単元を貫く言語活動として位置付ける。第一次では、椋鳩十について知り、椋鳩十の作品を基に作った物語の魅力を伝える「お話ガイド」のモデルを提示し意欲を高めていく。それと同時に、「物語を友達に推薦する」という目的意識をもたせ、見通しをもって並行して読むをすすめられるようにしたい。第二次では、「大造じいさんとガン」を読み、あらずじ、大造じいさんや残雪の人物像、優れた表現、大造じいさんの心情の変化を捉え、登場人物の相互関係を図式化した人物マップにまとめる。この時、叙述に着目させるために付箋を使ったり、書き出せるようなワークシートを活用したりする。また、自力解決において使ったワークシートを使って自分の考えについて根拠を明確に示しながらグループで交流し、考えを広げたり深めたりする。そして、心に残った物語の推薦文を書き「お話ガイド」を完成させる。第三次では、学習したことを生かして自分の選んだ椋鳩十の作品のお話ガイドを書いて友達に物語を推薦する。このことを通して、目的に応じ叙述に着目し登場人物の相互関係や心情を捉える力を育てられるようにしたい。

4 単元の見直し

- 椋鳩十作品に興味をもって読み、自分が推薦しようと考えた理由を明らかにしながら対象となる本を読み返したり、相手が求めている内容や情報に応じて本を選んで推薦しようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 物語を推薦するために登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述を基に人物マップや推薦文として自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- 言葉の正しさや美しさを捉えたり、その言葉が適切であるかどうかを感じ取ったりしながら読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 椋鳩十作品に興味をもって読み、自分が推薦しようと考えた理由を明らかにしながら対象となる本を読み返したり、相手が求めている内容や情報に応じて本を選んで推薦したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語を推薦するために登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述に着目して内面に描かれた心情を想像している。 ・ 場面の展開に沿って読み、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目しながら、その本を推薦するために、自分の考えをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の正しさや美しさを捉えたり、その言葉が適切であるかどうかを感じ取りながら読んでいる。

6 単元の指導計画（14時間扱い）

	主な学習活動	主な評価
<p>第一次 ②</p>	<p>◆ 学習の見通しをもつ。</p> <p>1 ブックトークにより、椋鳩十の生い立ちや作品の紹介を聞き、教材文を読み、心に残ったところや心ひかれる場面などについて紹介し合う。</p> <p>2 教師自作の「お話ガイド」のモデルを紹介し、心に残った魅力を伝える「お話ガイド」を作っ て自分のお気に入りの本を推薦しようというめあてをもつ。</p> <p>○ 自分の好きな本を選び、並行読書していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語を読んで、印象に残ったところや心ひかれる場面を伝えようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) ・ 教師のお話ガイドのモデルを見て、お気に入りの本を選んでお話ガイドを作っ て物語を推薦するという見通しをもとうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
<p>第二次 ⑧ 本時は第5時</p>	<p>◆ 教材文を読み「お話ガイド」を書く。 友達に推薦したいことを確かめながら優れた叙述に着目し繰り返し視点に沿って読む。</p> <p>1 「大造じいさんとガン」を通読し、大体のあらすじを捉える。</p> <p>2・3 登場人物（大造じいさん、残雪）の人物像を叙述を基に捉える。</p> <p>4 優れた叙述を見付け、そこから読み解いたことや自分の考えをまとめる。</p> <p>5 登場人物の相互関係を人物マップに表し、中心人物（大造じいさん）の心情の変化を捉える。</p> <p>6 あらすじをまとめる。</p> <p>7 物語の魅力を推薦する文を完成させる。</p> <p>8 お話ガイドを基に「大造じいさんとガン」の作品の魅力を推薦する。</p> <p>◆ 好きな椋鳩十作品のお話ガイドを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の行動や会話などに着目して、心情を想像して読んでいる。 (読む能力) ・ 登場人物の行動や会話などの優れた叙述を基に、登場人物の人物像を捉えている。 (読む能力) ・ 優れた叙述に気付いたり、言葉が適切かどうか感じ取りながらまとめている。 (言語についての知識・理解・技能) ・ 自分の気に入った表現や情景描写を見付け、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 (読む能力) ・ 優れた叙述に着目しながら、登場人物の相互関係や心情について、自分の考えを人物マップにまとめている。 (読む能力) ・ 登場人物の相互関係や心情、情景描写など優れた叙述に着目し、あらすじをまとめている。 (読む能力) ・ 語感や言葉の使い方に関心を持ち、その言葉が適切であるかどうかを感じ取りながら推薦文を書いている。 (言語についての知識・理解・技能) ・ 椋鳩十作品の魅力について自分の考えを広げたり深めたりしている。 (国語への関心・意欲・態度) ・ 登場人物の相互関係や心情、情

第三次 ④	1～3 自分が選んだ本を繰り返し読み、第二次と同じ視点でお話ガイドを書く。	景描写など優れた叙述に着目し、自分なりの考えをもって読んでいる。 (読む能力)
	4 お話ガイドを基に、椋鳩十作品の魅力を友達に推薦する。	・場面の展開に沿って読み、優れた叙述に着目して推薦文を書いている。 (読む能力) ・椋鳩十作品の魅力について自分の考えを広げたり深めたりしている。 (国語への関心・意欲・態度)

7 本時の学習

(1) 目標

「大造じいさんとガン」を読んで、優れた叙述に着目しながら、登場人物の相互関係や心情について、自分の考えを人物マップにまとめることができる。
(読むこと)

(2) 準備・資料

- ①学習計画表 ②全文シート ③前時までのワークシート ④ワークシート
⑤付箋 ⑥話合いの話型マニュアル ⑦教師自作の人物マップ拡大表
⑧言葉のたから箱 ⑨国語辞典 ⑩大型テレビ ⑪実物投影機

(3) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価	資料
つかむ	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>優れた叙述に着目して、登場人物の相互関係や心情の変化を人物マップにまとめよう。</p> </div> <p>○ 登場人物の相互関係を捉えるための視点や人物マップの作り方を確認する。 【登場人物の相互関係を捉えるための視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像(前時までに学習) ・登場人物同士の関わり合いが分かる叙述 ・場面の移り変わり ・心情の変化 <p>【人物マップの作り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 登場人物を書き出す。 (2) 登場人物同士の関わり合いが分かる叙述を見付け付箋に書く。 (3) 見付けた叙述を基に、登場人物同士を線や矢印でつなぐ。 (4) 人物同士の関係を言葉で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画に沿って学習課題の確認を行い、本單元における本時の位置付けをつかめるようにする。 ・前時までの「大造じいさん」や「残雪」の人物像、優れた叙述を捉えた時と同じように、登場人物同士の関わり合いや心情の変化が分かる叙述を付箋に書き出してから人物マップに表していくことを確認する。 ・登場人物同士の相互関係を捉えるための視点や人物マップの作り方を確認することで、全員がやることを理解した上で活動できるようにする。 ・登場人物の相互関係は、物語の進行に伴って変化するので、場面の移り変わりに注意していくことを伝える。 ・人物マップを作ることで中心人物である大造じいさんの心情の変化が捉えられるようにする。 	① ⑦
考える	<p>2 課題を自力解決する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 登場人物を書き出す。 (2) 登場人物同士の関わり合いが分かる叙述を見付け付箋に書く。 (3) 見付けた叙述を基に、登場人物同士を線や矢印でつなぐ。 (4) 人物同士の関係を言葉で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全文シートの登場人物の関わり合いが分かる叙述に線を引いてから付箋に書くようにする。 ・前時までに学習した「大造じいさん」や「残雪」の人物像、優れた叙述を見付けた時に書き出した付箋を使っても良いことを伝えておく。 ・叙述を基に登場人物同士の関わり合いや大造じいさんの心情の変化が分かる言葉を人物マップに書く時は、言葉のたから箱を参考にしても良いことを伝えておく。 <p>⑩ 優れた叙述に着目しながら、登場人物の相互関係や心情について、自分の考えを人物マップにまとめている。 (ワークシート)</p>	② ③ ④ ⑤ ⑨ ⑧
深める	<p>3 グループごとに、自分が捉えた登場人物の相互関係や心情の変化を発表し合い、互いの考えを比べ合う。</p> <p>【自分の考えの説明の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんは残雪について、(関係を表す言葉) というように見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に自分なりに人物マップを作ることができた児童は、作った人物マップを叙述を基に説明することで、自分の考えを深める話合いとなるようにする。 ・登場人物の相互関係や心情の変化がまだ捉えられなかった児童は、自分の考えを 	② ③ ④

	<p>ると思います。これは、(見付けた叙述)という言葉からそのように考えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残雪は大造じいさんについて、(関係を表す言葉)というように見ているとと思います。これは、(見付けた叙述)という言葉からそのように考えました。 ・大造じいさんは残雪のことを(初めの見方)と見ていたけれど、(変化した見方)と見るようになったと思います。これは、(見付けた叙述)という言葉からそのように考えました。 	<p>もつための話合いとなるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる叙述が同じでも登場人物の相互関係や心情の変化の捉え方が自分と自分との共通点や相違点を考えながら聞くよう指示する。 ・グループでの話合いが児童の思考を広げたり深めたりできるように参考となる話型を用意しておく。 ・友達の考えで参考になったところは全文シートに線を引いたり、メモをしたりするように指示する。 	⑥
まとめる	<p>4 本時の学習についてまとめる。</p> <p>(1) グループで話し合ったことを基に、登場人物の相互関係について見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを参考にして再度、登場人物の相互関係や心情の変化を見直し、直すところがあれば人物マップを直すことを伝える。 ・根拠となる叙述が新たに見付かった時には付箋に書き出しワークシートに貼るように伝える。 	② ③ ④ ⑤ ⑧
	<p>(2) 全体で登場人物の相互関係の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が捉えた登場人物の相互関係や心情の変化について児童に発表してもらおう。 ・根拠となる叙述や自分が捉えた人物像との共通点や相違点を考えながら聞くように指示する。 	⑩ ⑪
	<p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを意識させて、分かったことやできようになったことについて書くことで、本時で付いた力の振り返りができるようにする。 	